

～もっと障がいについて理解を深めるために～
ともに暮らす地域交流会Ⅳ

記 録 集



平成 24 年 11 月 18 日（日）
於：志津コミュニティセンター

主催：ともに暮らす地域交流会 実行委員会
佐倉市障がい者団体等連絡会
佐倉市ボランティア連絡協議会（V 連）
後援：佐倉市・佐倉市社会福祉協議会

目 次

1. 次第	1
2. 発表団体・主催者団体紹介	2
3. 第1部 発表の記録	3
4. 第2部 グループ意見交換会の記録	10

資料編

1. アンケート結果	18
2. チラシ	19

1. 次 第

日 時；平成 24 年 11 月 18 日（日） 午後 1 時～午後 5 時
場 所；志津コミュニティセンター・2F 大会議室ほか

～もっと障がいについて理解を深めるために～

ともに暮らす地域交流会Ⅳ

佐倉市障がい者団体等連絡会と佐倉市ボランティア連絡協議会（V連）は、これまで地域交流会を開催してきました。この『ともに暮らす地域交流会』を通じて障がいのある人もない人も、ともに暮らしやすい社会を目指しています。

第 1 部で、障がいのある人の生活実態や困っていることなどの発表とボランティア団体の活動を紹介します。第 2 部ではいくつかのグループにわかれて話し合いを行います。この場がともに理解を深める交流の場になれば幸いです。

次 第

○開会

○主催者開会の挨拶 〈佐倉市障がい者団体等連絡会会長〉

第 1 部 障がいのある人の生活実態や困っていることなどの発表とボランティア団体の活動を紹介 （1 時 10 分～2 時 15 分）

- ①印旛地区自閉症協会・佐倉支部
- ②千葉発達障害児・者親の会「コスモ」佐倉グループ
- ③まあるい会（V連会員）

第 2 部 （2 時 15 分～5 時）

- ①趣旨説明
（休憩・各 G の分科会に移動）（15 分）
- ②分科会 各 G での交流・意見交換など
（休憩・全体会場に移動）（10 分）
- ③全体会 各 G からの発表

○主催者閉会挨拶 〈佐倉市ボランティア連絡協議会会長〉

主催：ともに暮らす地域交流会 実行委員会
佐倉市障がい者団体等連絡会
佐倉市ボランティア連絡協議会（V連）
後援：佐倉市・佐倉市社会福祉協議会

2. 発表団体・主催者団体紹介

～ 発表団体紹介 ～

印旛地区自閉症協会・佐倉支部

自閉症協会は、全国に組織を持つ自閉症の親の会です。私たちの会は、千葉県に17地区あるひとつとして平成14年に産声をあげました。子どもたちがよりよく社会生活を送れるよう、会員のスキルアップを図ると共に自閉症についての理解を広める活動をしています。自閉症の特性は、周りの人たちに理解されにくく、活動の範囲が狭く、就労の機会も少ない状況にあります。個別化された教育や支援が受けられるよう、自閉症に精通した教育者や支援者の養成を望んでいます。

千葉発達障害児・者親の会「コスモ」 佐倉グループ

「コスモ」は千葉県内に住むLD(学習障害)及び、それに類似する困難(ADD、ADD、広汎性発達障害、アスペルガー症候群、高機能自閉症、知的障害等)を持つ発達障害児・者の親の会です。「コスモ」執行部が主催する講演会、勉強会、年3回の機関紙の発行の他、佐倉グループ内での例会、勉強会、親子のイベントなどで、情報交換や交流を図っています。

ホームページ <http://cosmohp.web.fc2.com/>

まあるい会

主な活動として、障がいのある人もない人もともに学び育ちあう社会を願って…

- ①障がいのある子の就園就学相談会及び各種教育相談
- ②市教委・県教委との話し合い
- ③「NPO法人自立支援スペース木ようの家」のボランティア
- ④社会福祉協議会のボランティア

～ 主催者団体紹介 ～

佐倉市障がい者団体等連絡会

佐倉市内で活動している障がい者団体が、種別を超えて連携していくために、平成19年6月17日に結成されました。現在、佐倉市手をつなぐ育成会、佐倉市身体障害者の会、佐倉市視覚障害者の会、佐倉市ろう者協会、佐倉市精神障害者家族会「かぶらぎ会」、印旛地区自閉症協会佐倉支部、千葉発達障害児・者親の会「コスモ」佐倉グループ、NPO法人さくらクローバーの会、NPO法人木ようの家、NPO法人佐倉地域精神障害者支援会SSSつばき会、手をつなぐ・さくら(支援団体)の11団体で活動しています。

佐倉市ボランティア連絡協議会＝V連

佐倉市内で、ボランティア活動を行っている団体と個人で構成されています。

運営委員会や懇談会、ボランティアのつどい等の行事を通して、ボランティア同士の交流や情報交換・協力し合うことができます。1つのグループ、1人のボランティアではできないことも、他のボランティアと連携することで、今までとは違う活動が可能になります。力を合わせることで、住みやすい地域になることを願いながら、V連は活動しています。

3. 第1部 発表の記録

(1) 自閉症協会の活動と息子の成長 印旛地区自閉症協会・佐倉支部

1) 自閉症とは…

☆自閉症の主な3つの特徴

①対人関係における障がい

- ・視線をあわせない。 ・呼んでも振り向かない。
- ・親に甘えたり関わりを求めたり、人に関心を示さない。
- ・人の心の動きを推し量ったり、人の表情や場の雰囲気を読み取れない。

②コミュニケーション障がい

- ・言語発達の遅れや反響言語（オーム返し）。
- ・言語をコミュニケーション手段として使えない。また、言葉が出ても会話が成立しない。
- ・クレーン現象がみられる。
- ・ジェスチャーや表情などをうまく使えない。
- ・ごっこ遊びや模倣遊びができない。
- ・相手と自分を置き換えられない。

クレーン現象

何かして欲しい時、言葉で用件を伝えず、人の手を引っ張って対象物の所まで連れて行く行動。

③興味関心や活動の幅が狭く、反復的常同*¹的な言語・行動

- ・特定の物、やり方、習慣、手順などへの執着。
- ・変更が苦手（日課、手順、道順、寒暖の差による衣類の着脱などなど）
- ・パターン化した動き（体を前後にゆする、手のひらをひらひらさせる、くるくる回る、ぴょんぴょん跳ぶ、爪先立ちなど）

☆よく見られるその他の特徴

- 五感の反応が独特で、鈍感だったり過敏だったりする。
- 想像力が乏しい。 ○機械的な記憶が得意（時刻表・カレンダーなど）
- 出来ることと出来ないこと（能力）の差が激しい。 ○睡眠障がい
- シングルフォーカス（一度にいくつものことを考えたり記憶したりできない）
- 自傷、他害行為 ○パニック ○独り言、奇声 ○独特の言葉の抑揚、音程
- てんかん（20才位までに20～30%の人が発症するといわれる）

これらの特徴は人により表れ方が違います。多くは知的障がいを伴っていますが、むしろ高い人もいます。また、言語発達の遅れの見られない人（アスペルガー症候群）もいます。そこで、自閉症はその範囲を限定することが難しいことから、近年は自閉症スペクトラム障がいと言われるようになってきました。

発症率は1,000人に3人程度ですが、スペクトラムと捉えると100人に1人程度になります。

原因は、先天的な脳障がいで中枢神経系の発達に何らかの問題が生じたためと考えられていますが、発症のメカニズムはわかっていません。

（编者注釈）

*1：常同；同じ行為・言語・姿勢などを長時間にわたって反復・持続するもの。常同行動、常同症状。

2) 自閉症協会について

自閉症協会は全国に組織を持つ自閉症児・者の親の会で、所属協会は全国に 50、会員数は約 15,000 人です。

私達、印旛地区自閉症協会は、50 の協会の 1 つの千葉県自閉症協会に属しています。県内には 17 の地区協会があり、各々地域に根差した活動を展開しています。印旛地区の会員数は 62 名、平成 14 年に発足しました。

☆印旛地区自閉症協会の活動内容（今年度の活動から）

4 月	総会 相談会（C A S * ² の先生による）	9 月	相談会（C A S の先生による）
5 月	親睦会	10 月	施設見学（印旛福祉会運営の C H）
6 月	勉強会（グループホーム * ³ ・ケアホーム * ⁴ について）	11 月	親子の旅（鴨川シーワールド）
7 月	施設見学（我孫子特別支援学校清新分校） 講演会（講師：八日市場特別支援学校教頭 西村先生）	12 月	忘年会
		1 月	相談会（C A S の先生による）
		2 月	おしゃべり会
8 月	親子お料理会	3 月	D V D 鑑賞会

※各月 1 回以上役員による連絡会開催

3) 息子との 20 年

息子のプロフィール	平 4.1.21 生まれ	3 人きょうだいの末っ子	身長 170 c m	体重 59 kg
	趣味	パソコン・音楽（カラオケ・鑑賞）		
	特技	辛いこと、悲しいことを楽しいことに変換すること 漢字の知識（漢検 3 級）		
	苦手なこと	大きな音（花火、ヘリコプター、雷管、風船は見るのもダメ）		
	その他	障害区分 4 療育手帳判定 A の 1 I Q 26 精神年齢 4 歳半 障害基礎年金 2 級 現在、自宅近くの生活介護施設に通っている		

（编者注釈）

*²：C A S（千葉県発達障害者支援センター：きゃす）；発達障害のある方に対する生涯にわたる一貫した支援を行う施設。関係機関との連携のもと、個別の相談、コンサルテーション、普及啓発研修等の事業を行っている。

*³：G H（共同生活援助：グループホーム）；障害者自立支援法による「訓練等給付」の生活の場のサービス。就労、または就労継続支援等の日中活動の場を利用している身体・知的・精神障がいのある方で、地域で自立した日常生活を営むうえで相談等の日常生活上の援助が必要な方を対象とし、家事等の日常生活上の支援や日常生活における相談支援、日中活動で利用する事業所等の関係機関との連絡・調整などを行うもの。

*⁴：C H（共同生活介護：ケアホーム）；障害者自立支援法による「介護給付」の生活の場の充実のサービスの一つ。生活介護や就労継続支援等の日中活動を利用している身体・知的・精神障がいのある方で、自立した日常生活を営むうえで食事や入浴等の介護や日常生活上の支援を必要とする障がい程度区分 2 以上の方を対象とし、家事等の日常生活上の支援、食事・入浴・排せつ等の介護、日常生活における相談支援、日中活動で利用する事業所等の関係機関との連絡・調整などを行うもの。

☆成長と問題行動

- 1才 自閉症特有の症状が出始める。
- 2～4才 偏食、こだわり・睡眠障がい・パニックなど症状がひどくなる。
- 6～12才 地元の小中学校の特殊学級（現特別支援学級）に在籍。
9才でトイレでの用足しが出来るようになる。
中学でも登下校が難しく2年間親と一緒に通学。
- 15才 印旛特別支援学校高等部に入学したが、身体の成長に伴い通学時の問題行動が多発。1年半登下校を見守る。

☆これからの課題（親亡き後を見据えて）

- ◇ 生活の質の向上（日常生活で出来ることを増やす）
- ◇ 親離れ、子離れ（^{ケアホーム}CH入居、各種サービスの利用）
- ◇ 後見（後見人を誰に・・・生活のコーディネートを任せられる施設の見極め）

（2）息子の成長と千葉コスモ

千葉発達障害児・者親の会「コスモ」佐倉グループ

千葉コスモは、千葉県に住む発達障害児・者の親の会です。発達障がいとは、学習障がい、ADHD（注意欠陥障がい、多動障がい）、広汎性発達障がい、アスペルガー症候群、高機能自閉症などで、様々な障がいを抱えている方が含まれています。症状も様々で、読み方をたびたび間違ふ、漢字が読めない、聞き間違いが多い、算数がなかなか理解できない、じっとしてられない、多動、集団生活になじめない、言葉に遅れがある、友達とのトラブルが多いなど、人それぞれです。

障がいが比較的軽く、いろいろな現れ方をするために理解されにくく、困難な思いをしています。子どもたちが自分の良いところを活かし、社会の中で生き活きと生活する場を得られることを願って活動しています。

そのため、それぞれの会員が抱える悩みや問題も様々です。その一例としてお聞きください。

小学校4年生の息子は、現在普通クラスに通っています。精神科への通院は年2回ぐらいで、日常困っている生活面や学習を相談しています。薬は飲んでいません。診断名もわかりません。

佐倉市の3歳半検診時に言葉が遅いと指摘を受けて、市の言葉教室に年少から年長まで通っていました。小学生の就学時検査では、視力検査をじっとしていなかったので出来ず、その場で学校の先生に支援教室に入った方がいいと言われました。親としては、早生まれで言葉が遅いだけと思い、なんとか普通クラスに入れたかったので、市の教育委員に幼稚園での生活をしている様子を見てもらい、「行動が少し遅いようですが何とかいいでしょう。」と言われ、今現在まで普通クラスに入っています。検査をしたらIQ90で普通ですが、行動が遅く時間がかかるので、わかりやすい言葉で教え

ていくことが大事と言われました。現在、学校では椅子に座って授業を受けています。体育のルールでは、先生が書いて説明する棒人間図でクラス全員が理解できるのですが、息子だけは理解できず、先生と一緒に二人で一人役となり、解説しながら教えるといくらも理解できる状態です。

体験談を3つほどお話しします。

①コスモに入って助けられたのは学習面です。

2年生なのに7+8もできない……ドリルを10問やるのに2時間もかかり、机や椅子をひっくり返し大声を出して暴れる日々でした。また、縄跳びの前回しも1回もできない……どうやっても手と足がバラバラになり飛べないのです。くによくにやしくいホースに変えたら2回飛べる状態でした。

毎日が普通の子とは違い、出来ないことが多く、どうしていいのかわからない日々で相談もできない状態でした。そんな時、仕事が休みになり、コスモの親の会に初めて参加できました。懇談会では息子の悩みを相談できました。

その時、参加者の一人が「縄跳びは出来なくても将来困らないが、足し算は買い物しても困るよね……」と言われました。確かにそうなのです。社会に出て縄跳びを飛ぶ機会は少ないが、足し算を使うことは多いのです。初めて指摘を受けて、私は、子どもに対して問題が2つ起きていて、2つの問題をいっぺんに出来るように子どもに求めていたことがわかりました。さっそく、足し算を優先にして少しずつ毎日コツコツ教えていきました。3年生の時は、家庭教師の方にも手伝ってもらい掛け算、割り算もゆっくりですが出来るようになってきました。縄跳びは、現在、連続5回が最高です。気長に様子を見ています。

②集団登校で遅刻しそうになりました。

息子が先頭になったら、歩くのが遅く、止まることが多く、ぎりぎりにみんなが学校についたそうです。集団登校中、先頭を歩いている息子が車や道路にあるものに気を奪われ、たびたび立ち止まってしまったらしいのです。

同じ登校中の親からも「遅刻して困るが、かわいそうで、なかなかいいにくかった。」と言われました。このことを聞いて、このままではいけないと思い、さっそく、集団登校と同じ様に、親子で一列になり家から学校までの道のりを同じ速さで歩くこと、登校中は止まってはいけないことを教え、練習して歩き、改善できました。

③車にひかれそうになりました。

登校途中、交差点の信号待ちでは、じっと待っていられず看板の支柱に片手をかけてクルクル回るのが大好きでよく回っていました。車にひかれそうになり、ボランティアのおじさんに何度か注意されて、ようやく理解し、今ではあまりしなくなりました。

発達障がいの子は、わざとやっているのではなく、途中で物が目について注意がそれやすいと思います。登下校の際、ボランティアの皆さんに「大丈夫？」と一声かけていただくだけでもとてもありがたいと思います。

発達障がいだからと一人で悩まず、誰かに話すことでより理解が得られると思います。私は、子どもが初め学校に入る時に発達障がいを隠そうと思っていましたが、だ

んだん成長するにつれ、普通の子とは違う困りごとが多くなってきました。なかなか他に相談することができず悩んでいました。

2年生になり、クラスの懇談会や子ども会には息子は発達障がいがあり、コミュニケーションではなかなか伝わらないことがあります。そこで、“出来ないことも多く、ご迷惑をかけることが多い”と伝えることにしました。自分から子どもの障がいを公表することにより、近所のママから“ちゃんと歩いて下校出来ていたよ”と声をかけていただいたり、同級生のお母さんからは、“きちんと座って授業参加していたよ”と聞くこともでき、親として安心しました。

マンションの自治会にも、一人で行動する機会が多くなったので息子は発達障がいであることを伝えておきました。おかげで今では地域の皆さんに見守られ、遊びに行ったり、買い物に行ったり、遅刻もなく一人で学校に通学できています。

次に、千葉コスモの仕組みや活動について、説明します。

千葉コスモは、5つの地域グループに分かれています。浦安グループ、市川グループ、千葉市・近隣グループ、船橋グループ、佐倉グループです。それぞれの地域内で縦の交流を図っています。また、小学生グループ、中学生グループ、Y P C (Young Persons Club; 高校生以上のお子さんを対象にしたグループ)、このような年代別のグループにも所属することができ、同じ年代の会員と横につながることで、いろいろな地域の方とそれぞれの年代が抱える悩みや問題について意見を交換することができます。活動としては、執行部が主催する講演会、勉強会、年3回の機関紙の発行の他、佐倉グループ内での例会、勉強会、親子のイベントなどによって、情報交換や親子の交流を図っています。コスモに入会して、子育てで悩んでいることを話すだけでもとてもいいことだと思います。

息子も4年生ですが、これから先、大きくなるにつれてもっといろいろな障がいが出てくることもあるそうです。両親だけではサポートできない面が多くあるので、是非、ご近所、学校の保護者の皆さんに少しでも理解していただければ幸いです。

(3) 地域で共に生きる まあるい会

発表の前に、まあるい会のDVD「あたりまえにみんなの中で」、Aさんの卒業式、高校生になりたい他を鑑賞しました。

まあるい会は、V連にも入っているボランティア団体ですが、元々は30年くらい前、公民館の親子遊びの会・めだかの会で、障がいのあるなしに関わらず一緒に遊ぶ会から始まった、障がいのある子と親の会です。

当たり前地域で共に生きることを目指し、普通学級に行き高校生になっています。DVDでごらんいただいたAさんも昨年、佐倉東高校に入学しました。

我が家には4人の子がいますが、末っ子の次男は自閉傾向と知的障がいがあります。自閉の人には人の数だけ色んなタイプがあると言われてはいますが、うちの子はすごく多動で、多分ADHD（注意欠陥多動性障がい）がかなりあって、それが一番大変でしたので、その話をさせていただきます。

息子は3歳近くになっても、歌は歌うのに言葉が遅く、体の成長は普通でしたが、よく動く子で、何だか私も大変で疲れるので、とても自分一人では無理と思い、上の子3人が通った近くの私立幼稚園の3年保育に申し込みをしました。

入園前の体験で、あまりに動き回るので、園長から児童相談所の相談員の面会を強く勧められました。面談に行くと、対人関係が弱いので、学校に入るまでに皆に追いつくように頑張りましょうと言われてました。

身体の成長に従って、息子は、さらに多動になっていきました。何とか成長して欲しい思いで、週2回障がいのある子の通園施設さくらんぼ園に、週3回幼稚園に通いましたが、ハンデありと分かると幼稚園は昼帰りが一年続き、「Bくんには無理ですから」と言われ続けました。

この頃、私が台所でご飯を作りながら泣いていると、この子がやってきて「おかしちゃん泣いてる」と言って（2語文が出た！）床にあった汚れたタオルで私の涙を拭いてくれたこともありました。

この幼稚園で3年通うのは私が無理と思い、佐倉市立の幼稚園にハンデがあることを正直に話し入園を申し込みました。市の幼稚園では若くて優しい補助の先生を付けて下さり、やっと安心して通うことが出来ました。

さくらんぼ園にも週1回くらい通ってプールや音指導を受けました。プールは親と一緒に入らなくてはなりません、入って疲れて家に帰り着き、ソファでホッと少しうとうとして、はっと気づくと既に息子の姿はなく（彼に開けられない鍵なし）、町中走り回って探す日々。すごい早さで家の前の四つ角を全方面へ逃げ、二重の鍵を開け（ドアに空き缶ガラガラつけても間に合わず）、買い物でも私が2秒横を向けば、かき消すようにいなくなり、レジで財布を開けている間に一人で店からいなくなりカゴを放って外で捕まえました。

パトカーで帰宅3回。夕方裸で逃げ出し、私は息子を町中探し回り、赤ランプのついているパトカーの中に息子を見つけ、警察官に「ではお母さん、家まで案内して下さい。」と言われ、パトカーの前を自転車で先導したこともありました。

この頃、いつも逃げた息子を呼んで探し回っていたので、私がたまたま一人で外を歩いているだけで、犬の散歩のおじさんから「今日は息子さん見てないよ。」と声をかけられたりもしました。

5歳の時に受けた知的診断で、年齢の50%くらい→2歳半くらいと言われ、この時、私は自分なりにやっとわかりました。4～5歳の元気な体に、1歳半～2歳半の理解力しかなければ、じっとしてられないだろう、溢れるでる衝動とエネルギーを抑えられず、座ってもられないのだろうと。

息子が幼稚園の頃に、まあい会に参加するようになり、他の兄弟と同じように地域で育てたい、とても私一人では育てきれないが、周りの理解を得て、子どもは子どもの中でこそ育つと信じてやってきました。

幼稚園を地域で通ったので、小学校では普通クラスでお友達や先生の助けを借りて入学式や運動会、参観日もちゃんとやってくれるようになりました。

小学校3～4年までは学校のことなど、家で聞いても何も話してくれませんでした。5年生あたりからほんの少しですが返事がくるようになり、また行動も落ち着いてきました。

子どもですからゆっくりですが、少しずつ成長していくのです。目から入る情報には強いようで、字も書き、好きな車の絵や動物の絵や恐竜などを上手に書くようになりました。

小中学校の先生には本当に恵まれて、良くしていただきました。クラスメイトにも助けられてきました。中学生になるとからかったりする子もいましたが、「やめろよ」と言ってくれる子もいます。クラスに気に入った女の子が出来たりもし、そうすると「〇〇さんのこと好きなの？告白しちゃいなよ、愛してますって言ったほうがいいよ。」と親切そうに焚きつける子もいました。息子は中身が幼いので素直に「〇〇さん 愛してます！」と皆の前で言ってしまったりするので、好きな子には嫌われてしまうのですが、「女の子にしつこくしちゃダメだよ。」と教えてくれる子もいて、これが社会なんだと思いました。みんなの中で揉まれて強くなり、やってはいけないことを知り、時には叱られ、社会に出て働く力を付けていく、それが一番の目標です。

息子は「高校生になりたいです。」と言いつつ、この一年本当に頑張って入試にチャレンジし、3度の受験をして佐倉東高校定時制の一年生になりました。春から無遅刻無欠席で勉強もし、喜んで通っています。

昼間は京成駅前のNPO木ようの家で、点字名刺の仕事もしています(100枚千円で名刺に点字を入れさせてもらう)。点字名刺は、障がいのある青年たちの仕事にもなり、点字を使う人達のためにもなり、使う方々には話のきっかけにもなります。名刺をお持ちの皆様、ぜひ木ようの家で点字名刺をお申し込みいただくとありがたいです。

息子は、他にワーカーコレクティブ風車で、食器洗いなどの仕事も始めました。木ようの家の青年たちは、それぞれ聖隷病院や生協やいろんな場所で働いています。

地域の小中学校に通って、知的障がいの重い子も軽い子も千葉障害児の高校進学研究会から高校に進学した子どもたちが、千葉県全体で今年100名を超えました。高校を卒業した後は社会で仕事をして、シェアハウスやグループホームで生活していくことを目指しています。

地域の皆様をお願いしたいことは、彼らが障がいがあっても自分らしく地域で生きていくことを理解していただきたい。そしてハンディキャップのある子どもたちに気軽に声をかけていただきたいということです。今はまだ返事ができなくても、「おはよう」「お帰り」と声をかけていただければ嬉しいです。挨拶の練習になりますし、お母さんの力にもなります。

どんな人も当たり前前に地域で生きられる社会を目指して、今後も息子と生きていきたいと思っています。皆様のご理解をいただけますよう、よろしく願いいたします。

4. 第2部 グループ意見交換会の記録

当日の参加者は69人でした。その内訳は、障がい者団体等19人、V連・ボランティア20人、市社協・地区社協・民児協21人、その他9人です（内訳は、主催者による分類）。

第2部では、5グループに分かれて意見交換をいたしました。以下、その意見等の概要です。

【Aグループ】

○障がいへの理解と地域生活について

- ・自閉症とかアスペルガーとか聞きなれない言葉で、地域で生活していると馴染みがないが、今日参加された方は理解されたと思う。なぜこれまで社会で問題にならなかったのか、嘆かわしいことだと思う。
- ・母親が一所懸命がんばっている。下の子が、兄が障がいをもっているということで見えられた経験を見聞きした。特別支援学級に通っている児童に民生委員として面談をしている（長期欠席の理由として障がい児をもつ兄弟が多い場合があるので先生に伝えている。）。
- ・長欠児童の場合、その子を学校に通わせていない事実がある。学校までの送迎を地域にお願いできるといい。行政の支援には限界があり、限界を超えるには地域の支え合いが必要。地域の連携があれば……。子どもが障がいを持っていることを受容するのに時間がかかり、またそれを社会に発信していくのにも時間が必要。
- ・一昔前は障がい児・者を隠す傾向があったが当事者や親が勇気をもって地域社会に発信していくことが必要。その発信力は大きい。
- ・昔は障がい者を隠していた。人として認められていなかったように思う。外国では視線が優しく、自然に接してくれる。国際障害者年をきっかけに日本でも変わってきた。障がいのある人も地域の人に発信していかないとだめだ。
- ・カナダでは普通に障がい者が自立した生活を送っている。日本では日常生活の中で見聞きすることが少ない。ボランティアをしているから少しは理解しているつもりだが、関心がない人はアスペルガーって何という感じ。もっと外に出て欲しい。
- ・「まあるい会」や「木ようの家」の活動は、普通学級に通わせるサポートをしていて素晴らしい。障がい者が安心して過ごせるケアホームがあればいい。後見制度もあるがやはり地域で支えてもらうのがいい。流山市は特別支援学級がない。普通に障がい児者がいる生活があればいい。
- ・世の中に余裕がなくなって少し障がいを受け入れられなくなっている。みんなに知ってもらえるのがいい。地域から全国に広がってほしい。
- ・子育て中、近所に26歳の知的障がいの母親から助けてくれと頼まれたのが福祉の道に入るきっかけだった。親の会のためにバザーの手伝いをするようになった。
- ・親が元気なうちは自分たちでやっていく。親たちがいろいろ行政にかけあってくれた。それでも地域での支え合いは必要。

○福祉サービス・制度について

- ・障がい者向けのインフォーマルな訪問サービスの充実。

- ・後見人の育成が必要だ。佐倉市はボランティア活動が盛んである。
- ・制度を組み合わせてどんな支援をしていくのかそれが必要。

○ネットワーク・仕組み

- ・どのようにしたら障がい者を支えられるのか。その支援内容をみんなで考えていく。
- ・情報をどれくらい集められるか、民児協、地区社協、市社協など普段から話し合えるような関係を築いておく。
- ・ネットワークで重層的に障がい児者を支えていくのが必要。
- ・障がい児者に対する温かい思いをどのようにして育てていくのか。どのようにしたらいいのか。
- ・地区社協の中に障がい者事業部を作るように働きかけていくことも必要ではないか。ユーカリが丘地区社協では木の宮学園に体験で行った。
- ・障がい者が外に出ていくきっかけを作る必要があるのではないか。

○権利と義務について

- ・障がい者自身の出席が少ない。本末転倒ではないか。障がい者は権利ばかり言って義務を果たしていないのにとこの思いがある。
- ・障がいについて、一歩引いている方と権利ばかり主張する方がいる。

【Bグループ】

○発表についての感想

《共感、感動》

- ・日常抱えている障がいの様子を聞いて、自分の子の障がいとは違うけど共通する親の思いや悩みは同じだと思った。幼いころのお話を聞きながら、自分とダブって共感した。
- ・子どもの障がい、特に外見でなかなかわかりにくいので苦労されたと思う。自分のことを考えると、信念を持って地域で学校でと頑張っている姿に感動した。

《会や団体など、仲間とのかかわりの大切さ》

- ・皆さん、がんばっていらっしゃると思った。子どもの障がいについて周りから偏見を持たれることが怖くて、なかなか言えなかった。家族会に入って変わってきた。がんばっている人がいて、それを支えてくれる人がたくさんいることが分かってきた。
- ・「親の会」に入ることではげられた。同じ仲間なら言える。そこに入らない人、行けない人をどうやって地域の中で支援していけるだろうか。具体的な手助けだけでなく、話を聞く、話ができる場が必要。

《ともに暮らす地域の一人として》

- ・手助けしたいけど、どうやって手助けしていいかわからないので、今日のように積極的に開示してくれるとお互いにわかり合える。
- ・地域で障がいのある人はいるかもしれないけどわからない。民生委員をしてもよくわからない。勉強しないと障がいについてわからない。研修を重ねて理解

を深めていきたい。

- ・障がいのある子の親ごさんの話を聞きながら、SOSを出された時地域で温かく受け止めることが必要。自然体で言える環境を作っていきたい。知らない、理解していないことは、差別の気持ちではないので理解しあえるようにしたい。

○意見交換

《現状》

- ・閉じこもってくる状況にある。学校は学校で、施設は施設で解決されてしまい、地域での支援は災害の時ぐらいたと考えている。
- ・障がい児のいる家族がつかれて虐待が多発してくるのではないか。地域の中で災害の時、いかに助け出すかや対象者の把握などを考えていく。(安心カード)
- ・高齢者のことは自分も年を取るののでわかりやすいが、障がいについて知ってもらう活動は難しい。
- ・一戸建ての住宅街などでは一人一人のガードが固くて困り感がわかりづらい。声が上がってこない。
- ・家庭と学校や施設の往復が専用のバスでの移動が多く、街中で障がいのある人を見かけない。
- ・市内で700人療育手帳を持っている人がいるが、「会」に入っている人は少ない。情報が入ってこない。そういう人に限って自分一人で抱え込んでいる人が多い。障がいのある人だけでなく、高齢化している親の問題、家族への支援をどのようにサポートできるか。
- ・積極的に社会と関わらない人(障がいについて一人悩む人)を、どのように社会がサポートしていけるか。

《理解を深めるために、課題を解決していくために》

- ・「こうほう佐倉」などで障がいについて理解が進むようなコラムがあるとよい。
- ・「サポートブック」をもう少し普及させていきたい。これは病院、学校などの施設に配って、市民に配っているわけではないが、パソコンでダウンロードすることができる。
- ・地区社協で、障がいをもつ方の生の声を聴く研修などの機会を作っていきたい。
- ・障がい者用の卓球台(盲人用・車いす用)がある。障害福祉課と社協が入って実験(試行)している。一緒にやることで分かり合える。お互いに気にかける関係でいられる。
- ・発表を聞いたり、スポーツをしたり、イベントしたりすることを通してわかり合っていく。
- ・事業所でも、当事者の作品などや物を買ってもらう、声をかけてもらうなど、市民とのやりとりの機会があることが大切。20年かかり佐倉市は変わってきている。
- ・信頼関係を作っていくには根気よく接していく。「個人情報」より「命」が大事。フェスタや祭りを一緒にやっていくうちに、障がいのことがわかってきた。
- ・ボランティア活動を通して地域の人と施設の人が関わっていく。ボランティア同士で横のつながりを持ってもらっている。施設が孤立した場所にならないようにしたい。

- ・民生委員から発信してご近所で見守る、地域包括支援センターの力も借りている。
- ・地域包括支援センターと事業所間の連携は増えてきている。連携がさらに進んでいくとよい。
- ・相談支援事業所の存在がなかなか知られていない。相談会のお知らせなどを広く必要な人に届けたい。
- ・情報の発信はいろいろな角度からのアプローチが必要（回覧板なども利用できるのでは）。相談しやすい場所をどうしていくか。地域の中の困っている人を気づく心、温かい目を持つなど人としての気遣いが大切。意識の啓発が大事。
- ・グループホーム、ケアホームができる時に、地域の人々の理解がほしい。施設が市内でもはずれた場所にあるのではなく、もっと人の多く集まる良い場所（利便性のある）に建て、一緒に暮らせるようにしていかないといけない。

知る・・・広報などにコラム、サポートブック、生の声を聴く研修会

触れ合う・・・スポーツ、発表を聞いたり、当事者の作品や物を買うことができる機会、イベントを一緒に

連携・・・民生委員、ご近所、ボランティア、地区社協、事業所、包地域包括支援センター
大切なこと・・・情報発信、施設や家族を孤立した場所にしない、意識の啓発

【Cグループ】

○お話を聞いての感想など

- ・自分の子ども自閉的傾向がある。地域社会の中で子どもを育てるということは、ご近所に障がいのある子のお話を話したり、地域のお祭りに連れて行ったりして、知ってもらおうこと。でも、好きなものを食べている時はおとなしかつたが、人がちょっと困るなということをしていたかもしれない。子どもも現在は成人し、地域の福祉作業所に通っている。母である自分自身も、現在障がいのある人の施設に勤務している。

今思うのは、親子それぞれの生き方を見つけること、親は親の時間、生き方を持つことの大事さです。以前より障がいのある方が地域で見られるようになって来た。臆せず地域に出て行って欲しい。

- ・子どもに障がいがある。仕事をしているので本当に困った時はインターネットで調べるしかなかった。親の会に誘われて入っていたが、行くこともできずにいたから。入ってずいぶんしてから、偶然集まりの日に休みに参加できた。参加してみて、同じような悩みを持っている人たちに出会い、安心できた。会に入ってよかったと思う。困っている家族や関係者に、団体の存在や活動がもっと知られるとよいと思う。
- ・体験発表は、お母さんからの話だったが、お父さんも大変だろうなと思った。障がいのある子どもを育てるのは、何より地域の理解が大切だと思う。ボランティアで難病の方に接したことがあるが、障がいのある方と接するというのも難しいことだと感じる。

- ・お母さんをはじめ、ご家族の方は毎日大変だと思う。特に小さい時の子育てはより大変だと思う。DVDで見たAさんの卒業式の姿がとても印象的だった。大切に育てられているんだなあと感じた。
- ・実行委員をしている。講演でお話をしていただけませんか頼んだことで、心労をかけているのではないかと……いいのだろうかと思っていた。DVDで育っていく姿を見て、親の喜びを感じられた。映像の力ってすごいなと……。感動した。
- ・テーマから重い話になるかと思ったが、発表者の笑顔が輝いていた。家族が障がい認める（受け入れる）までは大変だったと思う。障がいのあることを知らせたことで、地域が家族のようになっている。現在携わっているボランティアグループにも障がいのある人が3人いる。
- ・身内に障がいのある人がいないので、ショックを受けた。家族は大変だと思った。Aちゃんのように思いを伝えられる子もいると思うが、伝えられない子も多くいると思うと胸が痛くなる。

障がい者のスポーツボランティアをしている。主に視覚障がい者の卓球とテニスを指導している。「ボランティアのつどい」で活動発表をするので、興味のある方はいらしてください。

- ・自分が小中学校に通っている頃は、障がいのある子もない子もみんな一緒に学び、育っていた。地域の見守りも自然にあって、温かい目の中で子どもは育っていたと思う。障がいを区分されることは、いいこともあるかもしれないが、一緒に暮らしづらくなっているかもしれない。
- ・今までは仕事だけしていて、知る機会がなかったが、今日話を聞いて、親は大変な思いをしているのだと思った。障がい者の問題だけでなく、高齢者や子どもの問題もある。それらを知って、自分に何ができるかと考えた。地元佐倉で役に立てればと思った。
- ・障がい者団体との交流会のようなことが、何故行われるのか。いまだに福祉施設を作る時に地域で反対が起きたりする。行政に頼っているだけでは現状は何も変わらない。まずは当事者や家族が、地域に理解してもらえるように啓発していかなければと思うし、卑屈になってはいけない。

40年前よりは環境が整ってきたが、まだまだだと思う。地道に取り組んでいかなければ。隣近所との交流が大切で、敵意に満ちた目では受け入れてくれない。親があきらめず、理解者を増やしていくことだと思う。

- ・十数年前にヘルパーの資格を取った。訪問ヘルパーをしている時、自閉症や障がいのある方を訪問することが多かった。その時はいつも安全にヘルパーが終了して欲しいと思っていた。

近所にダウン症の方がいるが、ご両親がどんどん外に連れ出し、地域の方に知ってもらおう努力をしていた。挨拶を交わしたり、地域の協力を上手に利用している。その親御さんは障がいについて勉強している。親御さんも自分の時間を持って欲しい。

- ・農村地域は古くからのつながりがあるから必要ないかもしれないが、新興住宅地は隣近所ですら顔も知らない。だから地域で、という取組みが必要なのだと思う。

行政がやるべきということだけでなく、まず知ること、知ってもらうことが大事だと思う。この交流会も知る機会をつくる、ということ。

○参加者の顔ぶれを見て「なぜ市民にこのような機会があることの情報が届かないのか」というお話や「当事者団体の会員が減っているのは何故か」という意見に対して

- ・親の会や当事者の会に参加するとお金がかかる。親や当事者が障がいを知られたくないという思いから、会にはなかなか参加しない（踏み出せない）。でも悩み続けて、まず母が入会する。入れば悩みやいろいろなことが話せる。そういうことを経て踏み出せるようになるのだと思う。
- ・今回も関係団体などにはチラシを配布している（前年よりも多く）。
- ・人は自分に関係ないものや関心のないものは、目に入って来ない。人が声をかけるほうが確実に伝わる。このような機会がある時は、声をかける人になることを意識することが大切だと思う。

【Dグループ】

○本日の感想

《支援者として》

- ・3年前に発達障がいについて学んだ。この時初めて聞き、自分から参加し、知ることが大事だと思った。地域にいる自分たちが知り、一緒にやっていくことで地域にわかってもらうことになる。
- ・高齢者の場合（認知症など）は、わかりやすいが、障がい者の場合は、わかりにくい。一昔前は家族も隠していたが、障がいのある方がいて当然だし、家族もまわりも、もっと知ってもらうことが大事と思うようになった。
- ・40年位、福祉の仕事をしてきた。今日、お母さん達のお話を聞き、お母さん方自身が力をつけてきたことを知った。自分は市民活動の一つとして障がいのある方の生活を一つでも知ってもらいたいと「手をつなぐ・さくら」のたまり場で月2回活動をしている。佐倉地区や根郷地区でもこのような活動をして欲しい。
- ・DVDの女の子の笑顔が良かった。障がいのある方と出会う機会が多い。かぶらぎ会や他の方ともおつき合いをしたい。
- ・今まで障がいのある方とふれあう機会がなかったが、今一人の方と関わっている。個人的につながるとみんなが地域につながれると思う。今個人ボランティアだが、根郷で今日のようなところに誘ってこることが大事だと思った。地域の仲間にも伝え、もっと理解者を増やしたい。

《当事者・家族》

- ・一歩家を出ることから支援が必要な目の不自由な障がい者への理解は難しいが、声をかけてください。今日みんなに声をかけてもらってうれしかった。健常者は、足の不自由な方、目の不自由な方、いろいろな障がいのある方の苦勞を知って欲しい。
- ・自分は統合失調症です。そもそもの大本は、軽度の発達障がいがあって、統合失調症は二次障がいだった。今日、発表者の話を聞いて、当時、親から言われたことをなるほどと思った。自分は今どういうことに気をつければよいか、苦手は……。

他人に指摘してもらうことで、自分がわかる。今、社会復帰に一所懸命です。

- ・自分は障がい者の家族（人工透析－内部疾患）となった。仕事を失った。いろいろ受け入れざるを得なかった。自分から障害福祉課や保健所に行った。今のような機会を自分でキャッチし活動していくことが大事。

○障がい者をどのように支援したらよいか、若干（時間の関係により）の意見交換

《支援者から》

- ・自分は個人ボランティアをしている。組織からの要望（移動サービス等）はあるが個人からの要望がない。頼まれないことはやれない。何をやって欲しいのか？「理解する」とか「つながる」とは、どういうことか？
- ・近所に障がい者を抱えた家族がいるが、どのような支援をしたらよいのか？
- ・障がい者に声かけをどのようにしたらよいのか……など。

《当事者・家族・他の支援者から》

- ・理解とは何かと言われるが……例えば、ウチの場合、挨拶を普通にして欲しいとか……。
- ・一般の人に突然言われるときつい。親が傷つくと思う。
- ・親はなかなか受け入れられないでいる。
（例）1歳児、3歳児検診などでわかる時に、保健師さんが診て、親に話してくれることで、親は安心して話せる。

○市にお願いしたいこと

《志津公民館改築にあたって》

- ・たまりばをつくって欲しい。
 - ・障がい者だけでなく、高齢者、妊婦、その他の人たちが気軽に利用できるよう、一日まるごと使えるような部屋。和室も欲しい。
 - ・出入りしやすく、安全に過ごせるような配慮を
 - ・トイレ：介護しやすく／オムツ支援（大人用も）／盲人用／床のはめ込み
- ・障がい者団体等連絡会で検討し、市教育委員会に大至急申し入れして欲しい（設計中なので早く）。
- ・たまりば（リーベ）を利用している。初めて伺ったのに、隣のおばさんのように受入れてくれて、たあいもない話をしていることが新鮮に感じ、行くようになった。場を開いていて、ありがたい。この人ともあの人とも話せるようになった。月2回のたまりばに行くのが待ち遠しい。体調を整えて期待して参加している。

【Eグループ】

○感想・意見

- ・どの発表者もご自身の生活をありのままお話して下さって身近に感じられた。これからも町の中にいろいろなことを発信して欲しい。

《障がいのお子さんをお持ちのお母さんから》

- ・先生のサポートがあって現在の息子がいる。
- ・当たり前ではない生活を送っている。
- ・障がいに理解した目でみていただいている。

《ご自身の障がいをお持ちの方から》

- ・人生、平坦な道のりではなかった。いつも励ましてくれた両親を裏切らないようにしてきた。福祉面では、当事者と外部のはざままで悩んできた。人の思いは視覚から90%以上入ってくる。皆さんの目が慣れてはじめて人格も見てくださるのではないか。目が慣れない限り偏見につながる。

《ボランティアの方から》

- ・どのようなニーズがあるのか要望が伝えられることでお手伝いできる。

《特別支援学級職員の方から》

- ・大人6人でみている。お母さんたちのお話をじっくり聞いた支援ができればいい。

《高齢出産で知的障がいのお子さんをお持ちのお母さんから》

- ・勉強のことが気になっている。社会生活を営めるのか不安であるが、現在は集団に入れることで刺激になっている。健常者の集団の中で障がいの子どもがいて、援助・理解が生まれるので、これが当たり前であって欲しい。それによって親たちも学べる。

《その他の方の意見》

- ・以前には、障がいがあるのを隠そうとしてきたが、開き直りも大事ではないか。
- ・障がい者は、一般の人とかわらない。社会全体、優しい目線がないとダメである。
- ・接し方、挨拶、繰り返しで信頼関係ができる。
- ・高齢者施設は高齢者の増加で増えているが、それに比べて障がい者施設は増えていない。
- ・今まで苦労した分、これからの人生、幸せをつかみたい。
- ・誰でも亡くなった場合、人のお世話になることを考えてみようではないか。
- ・家庭教育、学校教育の中で障がい者がいるのが普通、特別のことではないことを教える。

○皆さんのまとめ

- ・それぞれの組織が意識を高め、一般市民を巻き込んで理解してもらおう。そして、国のバックアップ体制を整えられたらベストです。

以上

第1部の障がい者団体やボランティア団体の発表は、いかがでしたか？

- | | |
|----------------|-----|
| 1. 理解できた | 13人 |
| 2. まあまあ理解できた | 4人 |
| 3. あまり理解できなかった | 1人 |
| 4. 理解できなかった | 0人 |

第2部のグループに分かれての意見交換は、いかがでしたか？

- | | |
|----------------|-----|
| 1. 役に立った | 12人 |
| 2. まあまあ役に立った | 6人 |
| 3. あまり役に立たなかった | 0人 |
| 4. 役に立たなかった | 0人 |

意見交換の場で、困っていることや悩みを発言できましたか？

- | | |
|--------------|-----|
| 1. ほぼできた | 12人 |
| 2. あまりできなかった | 2人 |
| 無回答 | 4人 |

今回の交流会に対し、ご感想・ご意見等ございましたらご記入をお願いします。

- ・皆さんの“何かしたい”、“してあげたい”気持ちと“してもらいたい”方のマッチング方法が問題ですね。
- ・ほぼ関係者の参加からそれ以外の方へも広がっていくといいですね。
- ・障がいのある人の家族の集まりのようでびっくりした。
- ・具体的なアクションにつなげていくこと。ボランティアと障がい者間の連携。
- ・自閉症や発達障がいの実態を知ることができ、とても良かった。
- ・第4回目になるが当事者のお話を聞けることは大変有意義である。この場で聞いた話の“ともに暮らす”にはどうすればいいのかなどの情報は参加者が地域に伝達していくことが大事である。
- ・会の中で要望が出たら、形あるものにできるように活動して欲しい。
- ・障がい者のことを考えている人がこんなにいるのだと気づけて心強くなりました。
- ・前回より色々意見が出て良かったです。

今後の企画に対し、ご提案があれば、記入してください。

- ・市民の方々にもっと集まるよう広報に工夫を。内輪の話し合いでなくもっと外へ発信を。
- ・日程設定いかがか……この時期は特別支援学校等の行事と重なり障がい者サイドの出席が制約された。
- ・地域の人々に知っていただく企画を(開催場所や呼び掛けの対象を検討)
- ・年1回の交流会であり、まだ続けるべき。
- ・回を重ねる毎に、障がい者当事者の参加が増えますように。
- ・前もって私は連絡しなかった。入場を断れたら帰るつもりだった。連絡がなくても参加できる会にしたい。
- ・団体の活動発表で“自閉症”は理解できたが、他の2団体はわかりづらかった。折角の機会ですから、発表団体は概略の資料を作った方がよい(主催者が資料作成を指導し、支援した方がよいが)。
- ・意見交換会では、一人2分間にルールを決めたら(進行も発言中は止められない)。

ともに暮らす地域交流会Ⅳ

～もっと障がいについて理解を深めるために～



佐倉市障がい者団体等連絡会と佐倉市ボランティア連絡協議会（V連）は、これまで地域交流会を開催してきました。この『ともに暮らす地域交流会』を通じて障がいのある人もない人も、ともに暮らしやすい社会を目指しています。

＜内容＞ 第 1 部 障がいのある人の生活実態や困っている事などの発表と
ボランティア団体の活動紹介

発表団体：印旛地区自閉症協会・佐倉支部

千葉発達障害児・者親の会「コスモ」佐倉グループ
まあるい会

第 2 部 分科会 グループに分かれての話し合い
全体会 グループ発表・全体のまとめ

日時	平成 24 年 11 月 18 日(日) 午後 1 時～午後 5 時 第 1 部 午後 1 時～午後 2 時 10 分 (休憩 10 分) 第 2 部 午後 2 時 20 分～午後 5 時
会場	佐倉市志津コミュニティセンター ・ 2 階 大会議室
対象	障がいのある方や障がい者福祉に関心のある方 地域福祉に関心のある方 ボランティアに関心のある方 その他 どなたでも
定員	80 名 (要申込み) 締め切り 11 月 2 日(金)
参加費	無料

手話・要約筆記をご希望の方は申込書の連絡欄にご記入ください

※問合せ・申込み先 氏名・連絡先 TEL を記入の上
佐倉市ボランティア連絡協議会まで
〒285-0013 佐倉市海隣寺町 87 佐倉市ボランティアセンター内
TEL 043-484-6198 FAX 043-486-2518

主催 佐倉市障がい者団体等連絡会・佐倉市ボランティア連絡協議会
後援 佐倉市・佐倉市社会福祉協議会



～もっと障がいについて理解を深めるために～
ともに暮らす地域交流会Ⅳ
記録集

平成 25 年 3 月 14 日

発行 ともに暮らす地域交流会 実行委員会
実行委員 佐倉市障がい者団体等連絡会
佐倉市ボランティア連絡協議会（V連）
佐倉市社会福祉協議会